

# 2018年3月期 第3四半期 決算概要

---

テルモ株式会社

常務執行役員

北畠 一明

2018年2月8日

# ハリケーンの影響をはねのけ好調堅持

(億円)

	16年度Q3累計	17年度Q3累計	増減率	為替除く 増減率
売上高	3,744	4,370	+17%	+12%
粗利益	2,037 (54.4%)	2,447 (56.0%)	+20%	+15%
一般管理費	1,203 (32.2%)	1,436 (32.8%)	+19%	+15%
研究開発費	245 ( 6.5%)	287 ( 6.6%)	+17%	+14%
営業利益	589 (15.7%)	724 (16.6%)	+23%	+14%
(のれん等償却除く)	731 (19.5%)	943 (21.6%)	+29%	+21%
経常利益	522 (13.9%)	707 (16.2%)	+35%	
純利益	318 ( 8.5%)	635 (14.5%)	+99%	

期中平均レート	USD	107円	112円
	EUR	118円	129円

- 売上高 : ハリケーンの止血デバイスへの影響は軽微。心臓血管カンパニーが牽引し二桁伸長を維持
- 営業利益 : 全カンパニーにおいて二桁伸長を継続
- 経常利益 : 前年同期の為替差損 (37億) に対し、今年度は差益 (2億)
- 純利益 : 米国税制改革による、法人税等の一過性の減少 (140億) もあり純利益が倍増

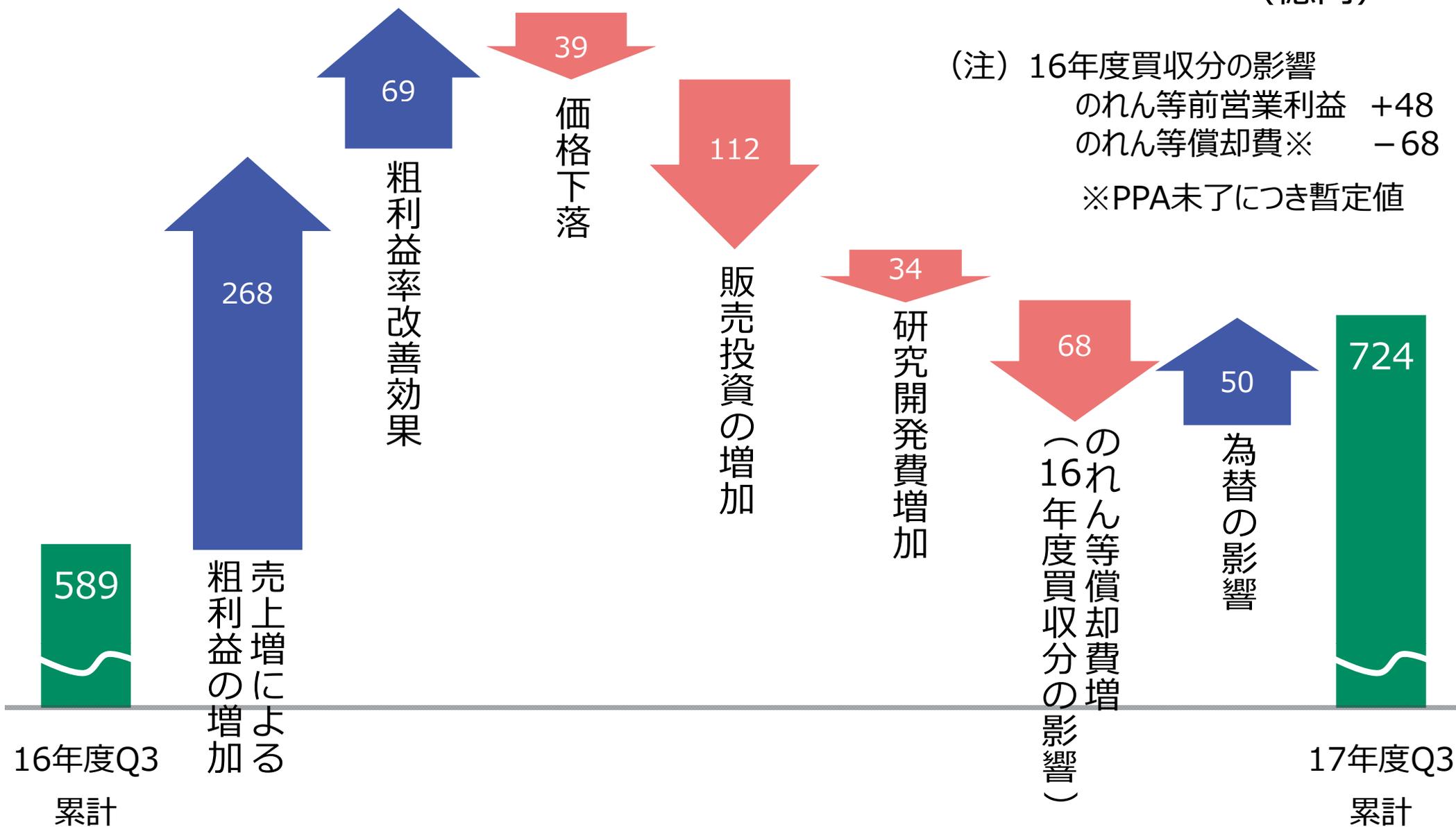
# 米国税制改革の影響

---

- 米国税制改革により、法人税（連邦税）税率が35%から21%に引き下げ
  - 法人税税率引き下げによる繰延税金資産・負債の再評価等の結果、17年度Q3において法人税等の一過性の減少が発生し純利益を押し上げた（140億円）
  - 一過性の純利益の増加は税効果会計による影響であり、キャッシュフローには影響しない
  - Q4以降の減税効果として純利益・キャッシュフローは増加を見込む
- メディカルデバイスタックスは凍結期間が延長（18年1月～19年12月）

# 営業利益増減分析

(億円)



# 営業利益増減分析における為替の影響

為替の影響増：上期累計 + 6 億円 → Q3累計 + 50 億円

- 円安・ユーロ高の影響
- 円安・新興国通貨高の影響
- 米ドル：プエルトリコ生産停止でドル費用減、その結果一時的に円安ドル高がポジティブに影響（通常はニュートラル）
- 棚卸資産未実現利益の減少：換算に適用する期末レート差異の縮小

期末レート比較 (円)

	16年度 9月末	16年度 12月末	差異
USD	101	116	+15
EUR	113	123	+10



(円)

	17年度 9月末	17年度 12月末	差異
USD	113	113	0
EUR	133	135	+2

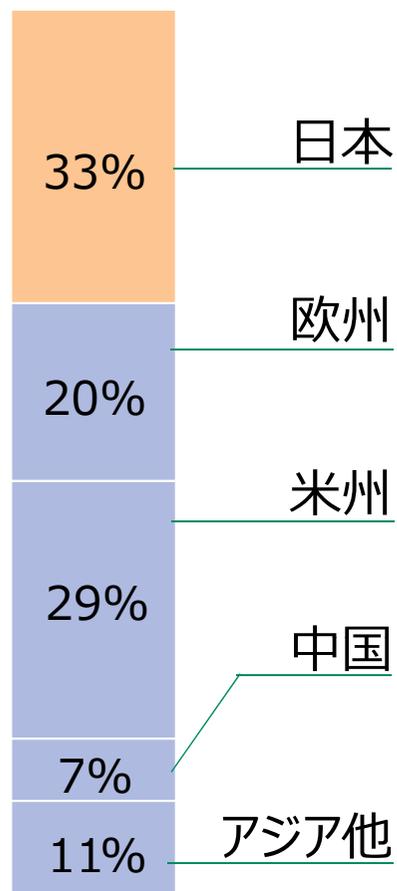
# 地域別売上高

17年度Q3累計

16年度Q3累計

## 売上高

100% = 4,370億円



## 売上額前年比較

金額(億円)	増減率	コメント
--------	-----	------

( ) 内は為替影響除く

日本	1429 1396	+2%	アクセスや血管内診断デバイスを中心にTISが牽引。ホスピタルでは、輸液ラインの好調に加えポンプが回復しプラス伸長へ
欧州	861 683	+26% (+17%)	全カンパニーで二桁伸長達成
米州	1263 989	+28% (+22%)	全カンパニーでプラス伸長。心臓血管は大幅伸長を継続。血液システムは安定成長へ
中国	312 253	+23% (+18%)	為替を除いても、心臓血管の全事業、および血液システムが二桁伸長を継続
アジア他	504 422	+20% (+13%)	心臓血管の全事業と血液システムが二桁伸長を継続

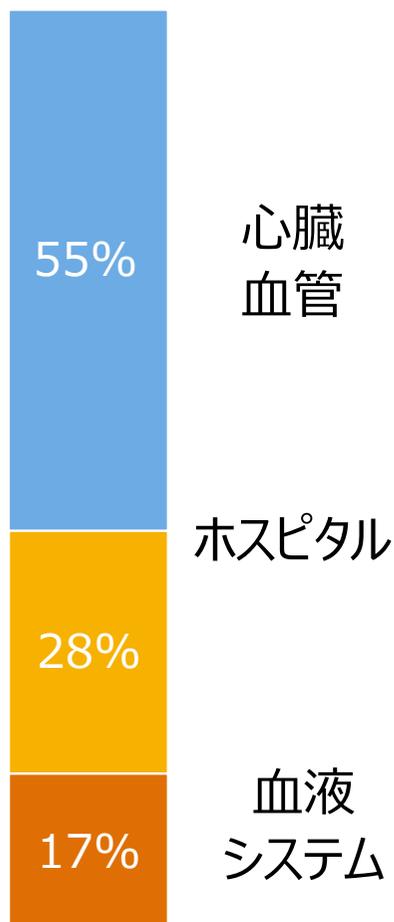
# カンパニー別売上高

■ 17年度Q3累計

■ 16年度Q3累計

## 売上高

100% = 4,370億円



## 売上額前年比較

金額(億円)	増減率	コメント		
	( ) 内は為替影響除く			
<table border="1"> <tr> <td>2400</td> <td>1866</td> </tr> </table>	2400	1866	+29% (+23%)	買収を除いても全事業で二桁伸長を継続。ハリケーンの止血デバイスへの影響は軽微。既存事業は為替を除いても二桁伸長
2400	1866			
<table border="1"> <tr> <td>1202</td> <td>1190</td> </tr> </table>	1202	1190	+1% (0%)	海外は低収益事業の整理。国内においてポンプ買い控えの緩和に加え、輸液ラインや疼痛緩和製品が牽引し、全体でプラス伸長へ
1202	1190			
<table border="1"> <tr> <td>765</td> <td>687</td> </tr> </table>	765	687	+11% (+6%)	新興国を中心に血液センター向け製品が二桁伸長を継続。アフエリス治療は、北米中心に一時的な買換え需要を受け伸長
765	687			

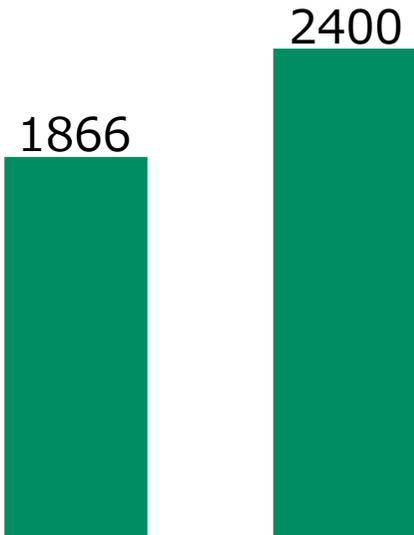
# 心臓血管：大幅な増収増益を継続

(億円)

	16年度 Q3累計	17年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
--	--------------	--------------	-----	--------	----

( ) 内は為替影響除く

売上高



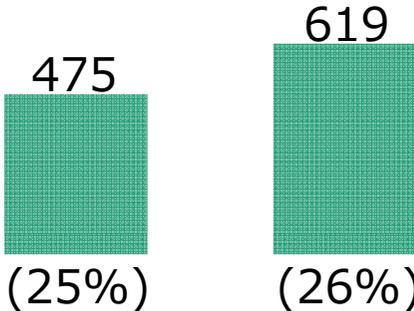
+29%  
(+23%)

- 為替の影響 +113

---

- TIS : 海外における既存アクセス製品の牽引  
に加え、止血デバイスが大きく貢献 +289
- ニューロ : ハイドロゲルコイルや吸引カテーテルが  
引続き牽引 +56
- CV : 米アナーバー工場品の出荷再開 +29
- 血管 : 買収したステントグラフトが順調に推移 +47

事業利益(率)



+30%  
(+20%)

ハリケーンの影響が軽微にとどまり、止血デバイスが大幅増益に貢献。全般的に高価格市場の米国で大きく伸長したことにより高収益性を維持

# ホスピタル: 売上がプラス伸長へ

(億円)

	16年度 Q3累計	17年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
売上高	1190	1202	+1% (0%)	( ) 内は為替影響除く 為替の影響	+16
				医療器 : 国内は回復基調のポンプと好調な輸液ラインにより前年レベルへ	
				海外の低収益事業の整理	-5
				医薬品 : 癒着防止材の展開開始	+4
				ヘルスケア : 低収益な国内外アカウントの整理	-6
				アライアンス : 海外、医薬品同梱品の伸長	+3
事業利益(率)	178 (15%)	208 (17%)	+17% (+14%)	海外における低収益事業の整理。 国内は輸液ラインや疼痛緩和製品の大幅コスト減に加え、開発費の戻り(アライアンス)がQ2に発生	

# 血液システム：収益性の改善基調続く

(億円)

	16年度 Q3累計	17年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
--	--------------	--------------	-----	--------	----

( ) 内は為替影響除く

売上高	687	765	+11% (+6%)	為替の影響 (対ドル ユーロ安)	+39		
				-----			
				血液センター : 新興国の二桁伸長継続	+18		
				アフレス治療 : 後継装置への切り替え			
				特需 (+10)	+20		
事業利益 (率)	103 (15%)	124 (16%)	+20% (+19%)	新興国における血液センター向け製品の物量増による粗利益率の向上に加え、高収益なアフレス治療製品が北米を中心に拡大しミックスが改善			

# 主なトピックス①

## 全社

- CSR活動：「テルモ富士山森づくり」15周年  
地域の方々と植林や森林整備を実施（10月）
- 名古屋・大阪でも株主向け説明会を実施  
株主との対話を促進（11、12月）



## 事業

- 日本初のパッチ式インスリンポンプ  
「メディセーフウィズ」の製造販売承認  
を取得（11月）
- テルモ山口に新棟建設（12月）  
TIS生産体制強化の為300億円投資



# 主なトピックス② 止血デバイス「Angio-Seal」再出荷

- 10月中旬：段階的に生産を再開
- 12月下旬：地域の送電安定
- 1月初旬：在庫積上げ後、顧客への出荷を再開



## インパクト

- 日欧は在庫でマネージし影響は限定的。  
米国はバックオーダーに（1月末に解消）
- 11・12月のグローバル売上は従来の半分に減少



# 17年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域
心臓	PTCAバルーン		米: Q4
	ステント(TRI)	★	FY18
ペリ フェラル	PTAバルーン(TRI)	★	FY18
	PTAガイディングシース(TRI)	★	FY18
	薬剤塗布バルーン	◎ ★	欧: Q4
	塞栓コイル	◎	済み
	プロテクションデバイス		済み
脳	ハイドロゲルコイル3D		済み
	放射線塞栓ビーズ	★	済み

領域	製品		地域
CV	人工心肺装置(再出荷)	◎	済み
	次期・人工肺	◎	日・欧・米 FY18
医療器	縦型・輸液ポンプ		日: 済み
	抗がん剤暴露防止システム		済み
DM	パッチ式・インスリンポンプ	★	日: 承認
血液	次期・成分採血装置ソフトウェア		日: 済み

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

# 業績予想の修正

- 売上 : TISやニューロの好調を考慮。加えて、血液システムにおけるアフレスシス治療の後継装置への切り替え特需など、一過性要素を反映
- 営業利益 : 止血デバイスへのハリケーン影響を乗り越え、下期業績予想を達成する見通し
- 純利益 : 米国税制改革の影響を反映

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
従来予想	5,750	820	795	530
今回修正予想	5,880	920	895	760
修正額	+130	+100	+100	+230

# 参考資料

# 事業別・地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	405 (+9%)	1995 (+26%)	615 (+24%)	880 (+30%)	255 (+20%)	245 (+24%)	2400 (+23%)
うちカテーテル※	310 (+9%)	1610 (+27%)	492 (+21%)	677 (+35%)	238 (+18%)	204 (+24%)	1920 (+23%)
ホスピタル	938 (0%)	264 (-2%)	62 (-1%)	57 (-3%)	16 (+2%)	129 (-3%)	1202 (0%)
血液システム	84 (-2%)	681 (+7%)	184 (+2%)	325 (+7%)	41 (+15%)	130 (+11%)	765 (+6%)
合計	1429 (+2%)	2941 (+18%)	861 (+17%)	1263 (+22%)	312 (+18%)	504 (+13%)	4370(+12%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( ) 内は為替影響除く前年比伸長率

# 販管費

(億円)

	16年度 Q3累計	17年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	546	631	+85	+16%	+11%
販促費	112	126	+14	+12%	+8%
物流費	84	94	+10	+12%	+10%
償却費	189	279	+90	+47%	+41%
その他	272	306	+34	+13%	+9%
一般管理費計	1,203 (32.2%)	1,436 (32.8%)	+233	+19%	+15%
研究開発費	245 (6.5%)	287 (6.6%)	+42	+17%	+14%
販管費合計	1,448 (38.7%)	1,723 (39.4%)	+275	+19%	+15%

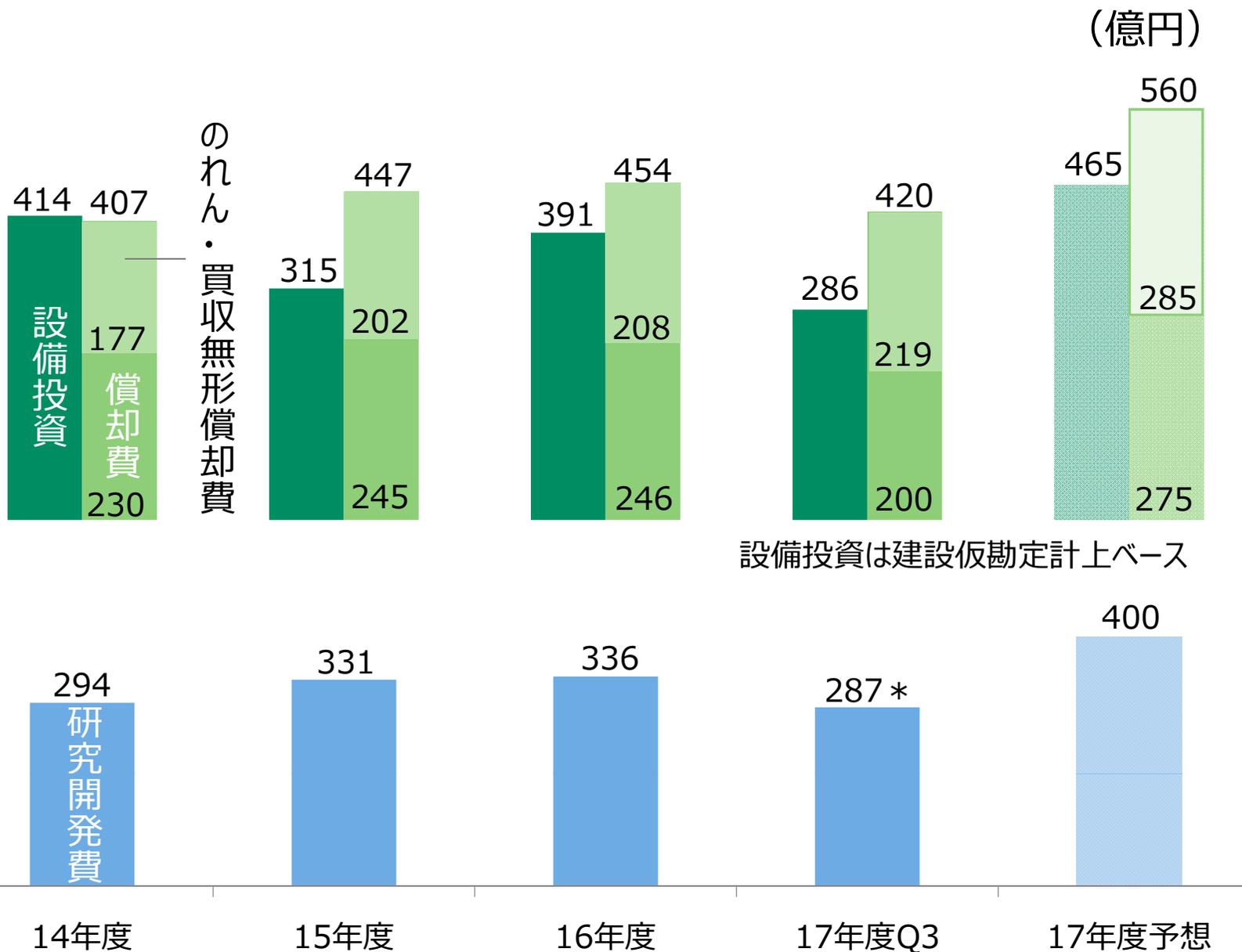
# 四半期の動き

(億円)

	16年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	17年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上高	1,293	1,398	1,393	1,453	1,523
粗利益	687 (53.2%)	743 (53.2%)	783 (56.2%)	814 (56.1%)	850 (55.8%)
販管費	410 (31.7%)	474 (34.0%)	464 (33.3%)	473 (32.6%)	499 (32.7%)
開発費	82 (6.4%)	92 (6.6%)	85 (6.1%)	96 (6.6%)	106 (7.0%)
営業利益	195 (15.1%)	177 (12.6%)	234 (16.8%)	245 (16.9%)	245 (16.1%)
のれん等償却 除く営業利益	245 (19.0%)	242 (17.4%)	306 (22.0%)	318 (21.9%)	319 (21.0%)

四半期	USD	109円	114円	111円	111円	113円
平均レート	EUR	118円	121円	122円	130円	133円

# 設備投資と研究開発費



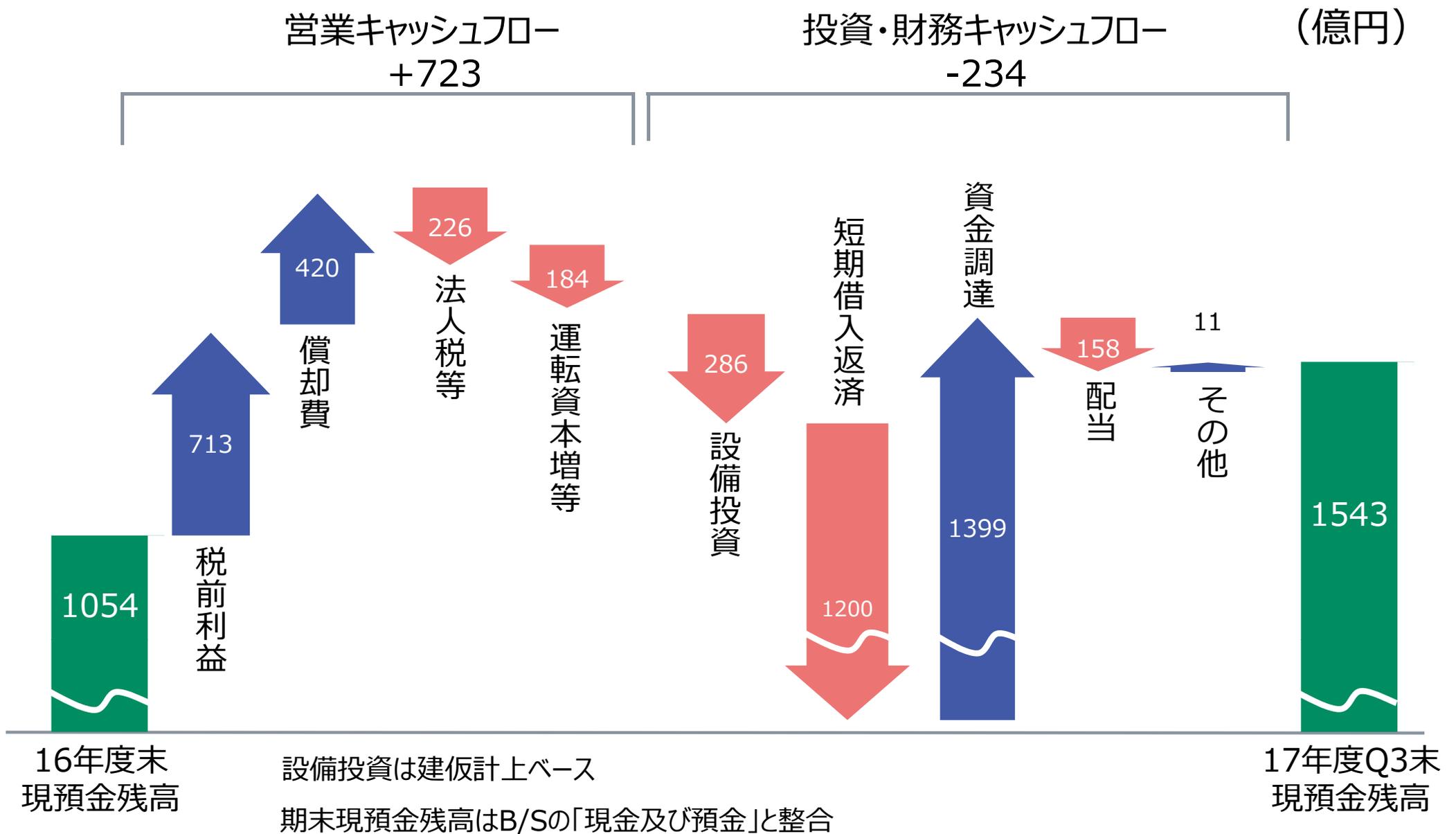
■ 17年度は、増産設備、生産スペース、IT投資を拡大

■ のれん、買収無形償却費は、16年度に実施した買収案件により増加見込み

■ 主に北米にてカテーテル・ニューロの開発活動を促進

\*ベンチャー技術への投資は、研究開発費とは別に計上（15億円）

# キャッシュフロー



# 17年度 為替感応度

(億円)

	USD		EUR	人民元
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む		
売上高	16	16	8	18
営業利益	0	-2	5	9

<参考> 10%変動時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
営業利益	-18	8	56	10	14	33



# 転換社債の状況

## ■ 社債明細 (2014年12月起債)

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	3,868	5,028	12.9百万株
2021年12月	500	0.0%	3,868	5,028	12.9百万株
計	1,000				25.9百万株

## ■ 転換状況 (2018年1月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	54.7億円(10.9%)	1.4百万株(0.37%)

### ➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況：27.8百万株(2017年12月末時点、発行済株式総数比7.3%)

# おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。